

ファナック株式会社

2023年度 第3四半期決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨 (2024年1月26日開催)

Q. 各商品ごとに在庫調整の現状と完了見通しについて教えてください。

A. まず FA については、お客様である工作機械メーカーにとってはユニットですので、先行して手配されるケースがあります。特に電気・電子部品の不足によって納期がだいぶ長くなっていたこともあり、最初に在庫が増えました。まだ適正レベルではありませんが、在庫調整は比較的早く進んでいます。台数的に一番多い中国での在庫がだいぶ減ってきていて、それ以外の国についてはまだ少し多いところもありますが、だんだんと在庫調整が進んできています。次にロボットについては活発な受注が続き、在庫調整のスタートが遅かったこともあり、在庫調整の途上です。在庫調整の見通しは不透明な部分があり、現地の受注が弱含みであれば長かかりますし、受注が予想よりも強ければ早く終わるケースも考えられます。国によってばらつきがありますが、アメリカ、ヨーロッパ、中国、いずれも現地の在庫レベルは高い状況ですので、最低でも半年程度はかかると想定しています。ロボマシンについては、ほぼ適正なレベルになっています。

Q. アメリカの在庫について教えてください。

A. ファナックアメリカの在庫につきましては大きく二種類あります。一つはお客様からオーダーを頂いているが、その計画が少し遅れ、ファナックアメリカがその在庫を保有しているというケースで、もう一つはお客様からの注文を予想してファナックアメリカのリスクで発注し在庫として保有しているケースです。後者については、即納できるので短納期で受注して早く売り上げることもあります。ただ後者が占める比率はそれほど高くなく、在庫の減少には時間が掛かる見込みです。

Q. ロボットと FA の受注状況と地域別内訳について教えてください。

A. ロボットの受注は 2Q から 3Q にかけて 50 億円弱増えています。中国で減っている代わりにアメリカ、欧州で増えています。アメリカは 2Q が低調だったため、その分好調であるように見えています。欧州については EV 関係を中心に自動車向けの受注が増えたことが背景としてあります。四半期ごとに大きな注文が入る・入らないでだいぶ様相が変わってきますので、参考情報としてお考えいただければと思います。FA の受注については、中国での在庫調整がある程度進み、当社に対する発注が徐々に出てきている状況です。ただそれ以外の地域は引き続き工作機械の需要がそれほど強くなく、在庫調整も進行中なので、まだ様子見というところ です。そういったことを合計しますと、FA については、台数的には中国の分だけ少し戻ってきているという実感です。

Q. ロボットと FA のバックログについて教えてください。

A. ロボットについては他の商品に比べれば最後までバックログが多かったのですが、現状ではほぼ納期が正常化しています。FA も同様で、在庫調整はまだ完全ではありませんが、だいぶ在庫が減ってきました。以前は乖離が見られていましたが、現状では工作機械メーカー様向けに販売する量に近いレベルの注文を海外関係会社から受けています。

Q. 現状の生産状況と今後の見通しについて教えてください。

A. 現状、在庫調整を進めるにあたって当社内での生産調整を行っています。2Q に比べて 3Q の生産は少し落ちてきています。4Q につきましては売上も落ちる見通しですので、やはりそれに合わせて生産も落ちてくることを想定しています。

Q. 4Q について現時点で把握している悪材料は何かありますか？

A. 売上レベルが 3Q までに比べると下がる見通しを立てています。今までは注残がかなり潤沢にありましたので、受注レベルに比べて売上レベルが高く推移していましたが、そろそろ注残も適正化されていますので、売上についても受注に応じたレベルになっていくと考えています。

Q. 今後の利益の確保のためにどのようなことに取り組めますか？

A. 直近の受注が続くということになると、売上の減少も予想されますので、利益を少しでも上げるべく、経費削減、付加価値を高めて売上と利益を上げることに取り組んでいきます。特にソフト機能を開発し、少しでも利益を上げていくことを徹底的に実行していきます。

また全般的にはインフレ傾向ですが、一時期に比べれば部材の高騰も落ち着いてきましたので、今まで以上に腰を据えてコストカットに注力して行きます。

原価率を下げて、何とか利益を 1 円でも多く確保するというのを全社員挙げてやっていくのが当社の伝統であり、それを徹底していくことが必要だと思っています。

Q. ティーチングレスのロボット、CPS：サイバーフィジカルシステムを活用したロボットについて御社の考えを教えてください。

A. 当社ではセンサを用いて自律的に動くロボットは 20 年以上前から自社の工場で使用し、またお客様へ販売もしています。いろいろなメーカーのロボットを繋ぐような仕組みや、ロボットがセンサで外界を認識し、CAD データなども使いながら、バーチャルの世界で軌道生成を行ってロボットを動かすということは、当社の商品でも実現が可能です。

こうした技術をお客様にはご理解いただいていると思いますが、アナリストの皆様あるいは株主の皆様にも、もっとわかりやすく当社の技術を説明し、ご理解いただけるように努力していく必要があると思っています。

Q. 中国市場でのロボットのシェアについて教えてください。

A. 中国でローカルメーカーのシェアが高まってきているのは事実です。ただ、あまり性能が求められず、価格が非常に安いロボットについては、当社では元から注力していません。

Q. ロボット展には非製造業のお客様も来りましたか？

A. 物流関係のお客様が非常に多くいらっしゃいました。今回のロボット展では段ボールのパレタイジング等を展示しました。食品関係のお客様も多くいらっしゃいました。ケーキへのデコレーションの展示など、興味を示す方が非常に多かったと思います。当社の展示は実際の工場でどう使われるのかを意識してシステムを組んでいますので、これをそのまま持っていきたいというお客様の声も多くありました。

Q. ロボット展での来客者数、商談数がかなり増えているとのことですが、今後の受注に結び付けるた

めに何が必要ですか？

- A. 当社のようなロボットメーカーやシステムインテグレータがお客様に対してその効果を説明し、設備投資を後押しするために努力する必要があると思っています。「人を集めるにも集まらない、ただ物は作らなくてはならない」状況となると、やはり今後もロボットへの投資はだんだん出てくると考えています。

Q. 今後、物流コストが上昇してきた場合、海外での生産を検討しますか？

- A. 海外生産にそれほどのコスト低減効果はないと考えていますので、今予想されるレベルの物流費の増加が海外生産の理由になるとは考えていません。日本国内で集中生産して海外へ輸出した方が安いと見ています。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。